

あし

新美南吉

青空文庫

二ひきの馬が、まどのところでぐうるぐうるどひるねをしていました。

すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきがくしやめをしてめをさしました。

ところが、あとあしがいっばんしびれていたので、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さつぱりはいりません。

そこでともだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいっばん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといっているじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちよつとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをほおんとけとばしました。

「やつぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたはずだ。よし、

はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、椅子いすがある。椅子がぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとぼしてやろう、ぼくのあしならいたはずだ。」

馬はかたあしで、椅子のあしをけとぼしました。

椅子は、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぽんぽんけつてまわりました。けれど、どれもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよつとしたら、あいつがとつたのかもしれない。」

と馬は思いました。

そこで、馬はともだちの馬のところへかえつてきました。そして、すきをみて、ともだちのあとあしをほオんとけとぼしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そオらみろ、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「このとんまめが。」

ともだちの馬は力いっばいけかえしました。

しびれがもうなおっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。

そして、やつとのもので、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね 新美南吉童話作品集」てのり文庫、大日本図書

1988（昭和63）年7月8日第1刷発行

底本の親本：「校定 新美南吉全集」大日本図書

入力：めいこ

校正：もりみつじゅんじ

2002年12月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

あし
新美南吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>